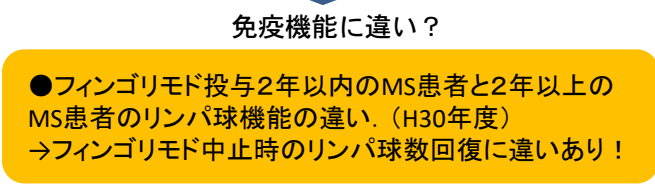
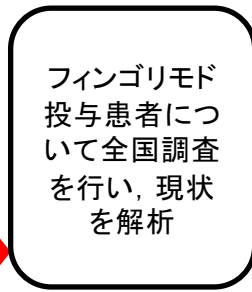
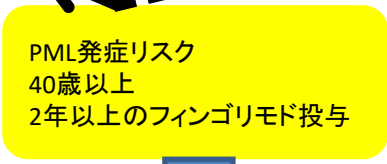
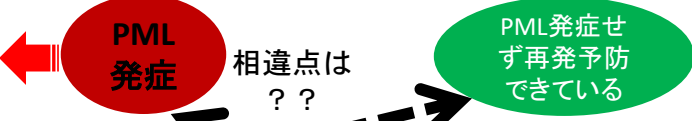
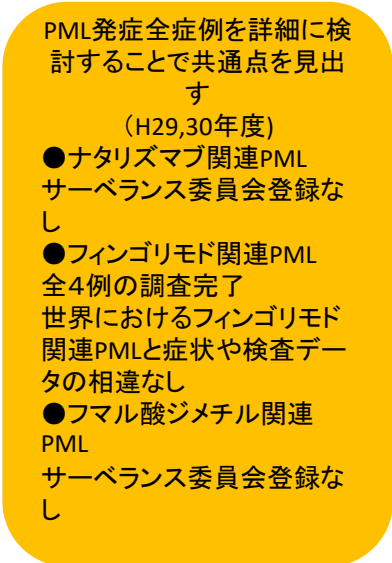
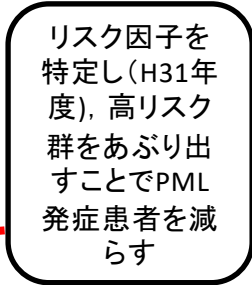
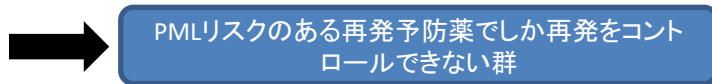


多発性硬化症再発予防薬関連 進行性多巣性白質脳症サーベランス

研究分担者：国立病院機構医王病院 高橋和也

「診療ガイドラインの策定・改訂」、「診断基準・重症度分類策定・改訂のための疫学調査」



解説

1. 多発性硬化症は若年者に発症しやすい中枢神経系の自己免疫疾患であり患者数が増加している。
2. 近年再発予防薬が数種類開発されており有効性を認めているが、致命的な疾患であるPMLを発症する患者が特に日本人で多い傾向にある。
3. サーベランスに登録された多発性硬化症再発予防薬関連PMLの詳細を検討することでPML発症のリスク因子を特定する(H29,30年度)。
4. 今後の投薬適応基準を適正なものに変更すること(H31年度)でPML発症を抑制することができる。